

1・17防災未来賞 ぼうさい甲子園 優秀賞 受賞!

本校の防災教育が、また顕彰された。今年度の1・17防災未来賞「ぼうさい甲子園」(主催/兵庫県・毎日新聞)が、今年度も「優秀賞」を受賞した。この賞は、阪神・淡路大震災を機に作られ、小・中・高・大学で先進的な防災教育を行う学校、団体に贈られる。今年度は百十七校から応募があり、授賞式には2年の亀山沙月さんと1年の高橋里奈さんが出席。本校の活動を紹介します。賞状と盾を受け取りました。



表彰式に参加した高橋さん(2列目の左から3人目)と亀山さん(同4人目)

未来への伝承と発信

津波標識活動・国際交流・学校間交流・子どもたちへの防災教室



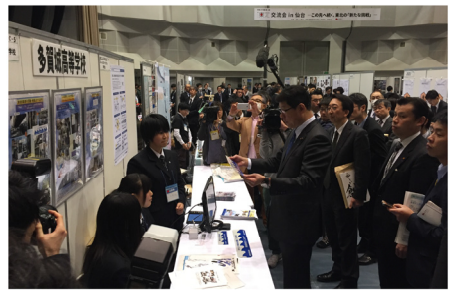
多賀城市大代地区の加藤さんの話を聞く本校生徒

4年目を迎えた津波標識設置活動は、27年度から新たに、被災された地域住民の方々から、津波の高さの他、震災当時の様子を直接話を伺いながら、記録を残すという活動を始めた。今回は、生徒会執行部を中心に夏休みを利用して、多賀城市大代地区で調査を行った。この日は同地区に住む加藤さん宅に伺い、津波の高さや避難の様子など当時の写真を見せていただきながら説明を受けた。これまでの設置活動では得ることができなかった地域の方々との交流を深められ、地域と一体となった木来への伝承という活動に、今後ますます期待がかかります。

復興庁「新しい東北」交流会 in 仙台

高木復興大臣 本校ブースを訪問

2月11日、仙台サンプラザで「新しい東北」交流会 in 仙台」が行われた。復興庁が主催するこの催しは、東日本大震災から5年の復興の歩みの中で東北各地に生まれた「新たな挑戦」を紹介し、今後の復興の在り方を考えていく、という趣旨で、90を超える団体が一堂に会し、各ブースで紹介・展示が行われた。「災害科学科」を開設する本校も、招待を受けブース出展とプレゼンに参加し、生徒会副会長の鈴木菜々子さんと執行部の阿曾南美さん、小野寺香さんが本校の防災活動や災害科学科の紹介をした。本校のブースには、視察中の高木復興大臣も訪れ、鈴木さんらら活動の内容などを説明した。高木大臣は、翌12日、開議後の記者会見で、交流会に出席したことに触れ、「ブース展示では、多賀城



本校のブースを訪れ津波標識を手にする高木大臣

学校間交流

岩手県立宮古工業高校機械科の津波模型班が製作した「仙台湾周辺津波模型」が寄贈された。8月29日の多高祭で公開・実演された。模型は約1・8四方で縮尺2万5千分の1、仙台湾周辺の平野部が精巧に再現されている。モーターで水槽に汲み上げた水が、模型内へ流れると、仙台湾に津波が押し寄せ、同班はこれら、三陸中心に模型を製作、近隣の小・中学校で出前実演会を行うなど、防災意識の啓

岩手宮古工高



津波実験を披露する宮古工高の生徒(手前)

国際交流

環太平洋学会

7月23日、東北大学など環太平洋の著名な大学で構成される「環太平洋大学協会」の一環約40名が本校一行約40名が来校した。本校生徒の案内で市内浸水域の「まち歩き」に参加。貞観の津波でも被害を逃れたとされる「末の松山」などを巡った。その後、学校で生徒らと意見交換が行われたが、アメリカやフィリピン、インドネシアなど各国の研究者は本校の防災教育に強い関心を示し、さまざまな質問が出された。

本校の活動に対し感想を語る研究者

被災地案内ボランティア

8月4日、外国人に被災地を案内するボランティアが実施された。これまでにアメリカ、チリ、ジャマイカ、ベトナムなどの国々の方を案内してきたが、3回目となる今回は、香港と中国から4名のゲストを迎え、津波で被災し更地となった七ヶ浜町菖蒲田地区や仮設住宅を案内した。仮設に住む方からは現在の生活について話を聞き、それを英語に訳して伝えた。また、被害が大きかった地域だけでなく、宮城の魅力も伝えようと、午後からは遊覧船で松島を案内し観光光景もPRした。



菖蒲田浜を案内する生徒

地域交流

12月20日、多賀城市桜木に建設された桜木復興公営住宅において本校合唱部がクリスマスミニコンサートを開催した。当日は、復興住宅の住民約30名の皆さんと共に「サンタが町にやってくる」を桜木バードジョンを桜木バードジョンで歌うなど、大いに盛り上がった。また、3月には「心に花を咲かせよう」の復興コンサートにも出演し交流を深めた。さらに、三重県との復興・交流イベント「東日本大震災から5年、若い力がつなぐメッセージ」に招待され合唱を披露した。

鹿児島女子高

8月22日、鹿児島女子高等学校から、上田生徒会長、村田副会長、丸野副会長、河野会計部長の4名が本校を訪れた。阿部拓人生徒会長が挨拶し、生徒会活動や行事、防災活動などについて話し合った。一行は多賀城市内の津波浸水域も訪れ、津波襲来時の映像を見ながら、津波標識をたどる「まち歩き」を行った。途中、津波痕跡がまだ残っている国道45号八幡歩道橋にも立ち寄り、上田生徒会長が、今年度新たに製作した津波の跡を示す「津波痕跡表示ステッカー」を貼り付けた。

2月10日、11日、神戸大学附属中等教育学校を1年生の平塚亜美さん、宮田優香さん、門間大輝君の3名が訪問した。27年12月に多賀城高校を訪れた神戸大附属の生徒が、宮城県を訪問した際の発表を聞いたあと、約2ヶ月ぶりの再会を



クリスマスソングを歌う合唱部

神戸大附属中等

神戸大附属の校舎屋上で記念写真を撮影した生徒たち。神戸大附属の生徒と本校の生徒が交流し、多賀城市内の津波浸水域も訪れ、津波襲来時の映像を見ながら、津波標識をたどる「まち歩き」を行った。途中、津波痕跡がまだ残っている国道45号八幡歩道橋にも立ち寄り、上田生徒会長が、今年度新たに製作した津波の跡を示す「津波痕跡表示ステッカー」を貼り付けた。



神戸大附属の校舎屋上で記念写真を撮影した生徒たち

子どもたちに伝える

児童館で防災教室

8月3日から3日間、多賀城市内の児童館で小学校1~3年生を対象に防災ゲームや絵本の読み聞かせ、防災マップ作りを通して、小学校低学年の子どもたちにも防災を身近に感じてもらおうと「防災ふれあい教室」が行われた。生徒は、防災委員を中心としたボランティアで、津波の教訓の紙芝居や絵本の読み聞かせのほか、生徒自作の「防災グズ釣りゲーム」など、防災意識が自ずと身につくようなプログラムで子どもたちを楽しませた。また、iPadを使い児童館周辺の危険箇所を探して「防災マップ」を作るなど、それぞれが建物の形や色彩を工夫して、オリジナルの「マップ」作りを取り組んだ。最終日には子どもたちがデザインした紙コップ製のプーメンを飛ばして、遊びながら児童館周辺の危険箇所を知るゲームを行うなど、楽しみながら防災意識が身につくよう工夫を凝らした企画で子どもたちを喜ばせた。

子どもたちの前で自己紹介

災害募金ボランティア

ボランティア同好会を、通過被災地に贈られた。また、9月に発生した茨城駅前でも2日間募金活動を行い、二万三千元余りの協力を得られた。収益金は宮城県大崎市と大和町、茨城県の常総市にそれぞれ七千五百円ずつ贈った。ボランティア同好会では、今後も大きな災害が起きた際には積極的に募金活動を行っていくという。



JR下馬駅前で行う募金活動を行うボランティア同好会の生徒